

事業主体名 霧島有機社中（始良市）

1 目的

始良地域は有機農業に取り組む新規就農，参加者は増加し，最近5年間で後継者5名，新規参加者14名が就農しており，経営安定に向けた資質向上が必要となっている。

霧島有機社中は，始良地域の新規就農者や新規参加者などが参加して，技術・経営・資質向上を目的に平成22年度に設立され，現地検討会や栽培講習会などの活動を行っている。クラブ員の栽培品目は多品目であり，それぞれの品目の栽培技術の向上に努めなければならないが，その中で，にんじんは12月～7月までの長期間の出荷が可能で，たまねぎは3～5月出荷の主力品目で，どちらも需要も高い品目であり，重点品目である。

そこで，霧島有機社中の共同プロジェクトで有機栽培にんじん，たまねぎに取り組み，クラブ員の栽培技術向上に資する。

2 実施状況

(1) 技術向上対策の実施

ア 技術向上に向けて実証ほの設置や検討会（室内，現地）を開催した。



にんじん検討会(7/12)



たまねぎ育苗指導(11/7)



たまねぎ現地検討(3/19)

(2) 栽培指針の作成

ア 実証結果を基に栽培指針を作成した。

にんじん(セリ科)

1 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
播	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
採	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 品種
秋風五寸，黒田五寸，向陽二期

3 栽培技術
(1) 適耕作型と品種
施肥量(10a) たい肥 2,000kg 油粕 200kg
種 播
専まき・種幅 85cm，畝間15～20cm，2畝，株間7cm
秋まき・種幅150cm，畝間12～15cm，6畝，株間7～10cm

(2) 播
種深さで10a当たり1～2t消費，コート種子では一株あたり3粒までで種子を準備する。にんじんは発芽率が悪いので，発芽を促すために浸水後は種を，は種床の置き厚さは，水分状態が適量なときは，5mm程度とし，乾いているときは，10～15mm程度とする。浸水後，乾くまで乾燥機で乾燥させる。
8～9月は種作型は，事前に太陽熱消毒を行い，雑草対策を行う。

(3) 間引き
苗の生育は普通2回が標準である。第1回は2～3葉期(2～3cm)に1本とし，5～6葉期に最終株間とする。もし，1回で済ませる場合は，4葉期ごろから間引き始め，5～6葉期には終わる。

(4) 中耕，土寄せ，追肥
本葉4～5葉期から開始(形成期)に入り，本葉の葉期になると葉量の増加が早い。10葉期には葉量の増加も始まる。追肥は油粕を使用し，葉量を増やしながら実施する。1回目は本葉2葉期に，2回目は3～4葉期に条間にばらまき，通溝部分を軽く中耕する。3回目の追肥は最終間引き後，追肥に施用後，株元まで土寄せを行う。

たまねぎ(ユリ科)

1 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
種	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
播	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
育	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
採	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 品種
(1) 超種早生(2～4月出荷)：アップ，博多黄金EX，早生丸玉5E型，貴鐘
(2) 早生品種(5～6月出荷)：七宝早生7号

3 栽培技術
(1) 育苗
種子は発芽率85%以上の種子を本坪10a当たり94～6dF準備する。育苗床は雑草対策に太陽熱消毒を行う。は種は浸水し，種子が膨れる程度までする。シーダーを活用すると等間隔では種できる。
作型 種幅130cm，株間1cm，5条まき 32,000粒/a
苗の品質が収穫に大きく影響する。過正苗は葉根が3～7mmで100本重が600～700g，草丈が30cmが理想である。(9/1cmや10cmの節間は1/2の太さが目安)苗が大きすぎる心抽苔，分球の割合が高くなり，小では販売しない。

(2) 定植準備
施肥量 たい肥 2,000kg，鶏ふんたい肥 200kg，油粕 150kg
作 法 種幅150cm，株間15cm，5条，10,000株/10a

3 今後の課題，取組

霧島有機社中は新規参加者が多く，生産者の経営安定には技術確立は不可欠である。今後も栽培技術，経営管理能力の向上に向けた活動が必要である。